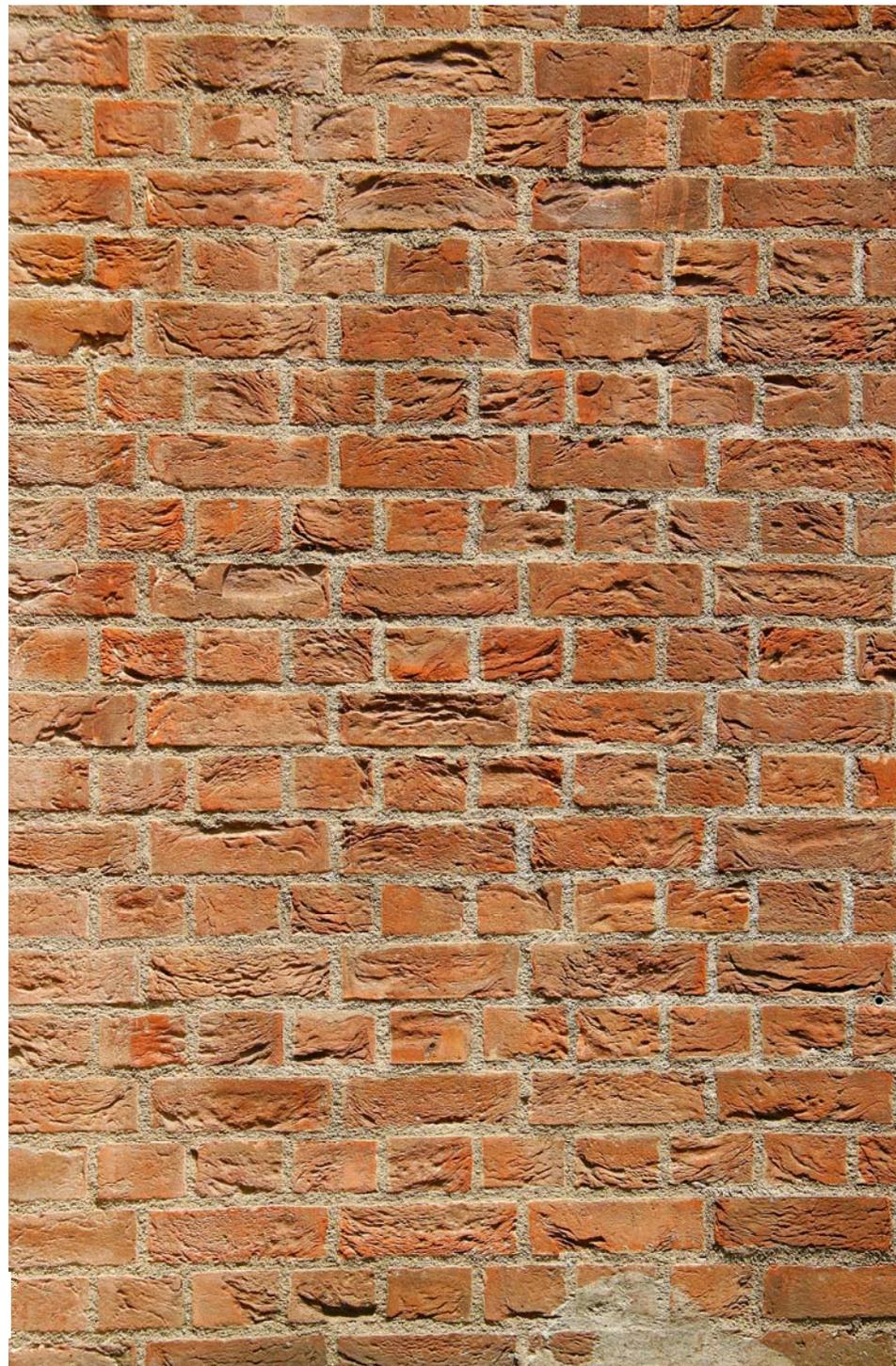


第3回 色鉛筆による質感表現

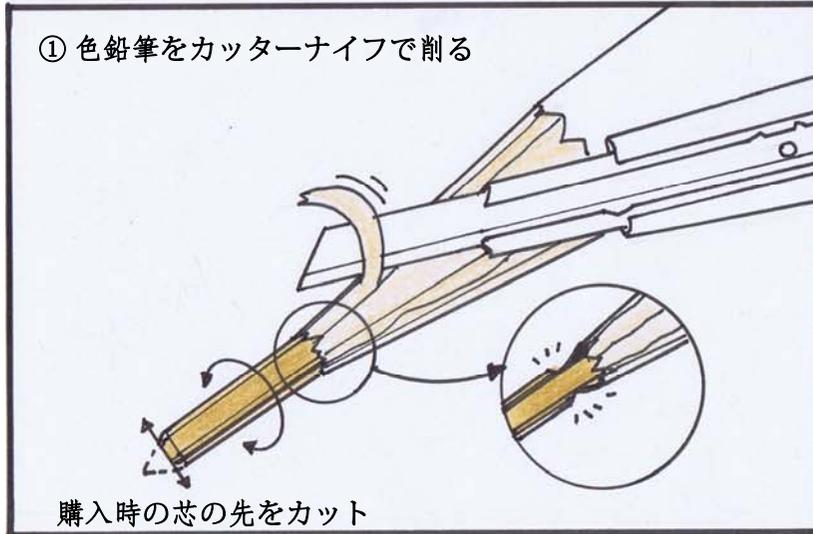
自然素材の質感表現を練習します。手元に実物や写真を用意して、素材の特徴をよく観察してください。インテリアの仕上げ材のテクスチャーは色と柄(パターン、木目、石目など)から構成されます。まず重要なことは、色鉛筆の芯先を目的にあった研ぎ方をするということです。ベースになる色を丁寧に塗り、その上に柄を入れて仕上げます。したがって、粗いタッチ、乱暴なタッチがそのまま、その柄を作ることとなります。

1. 道具をつくる
2. 下地を作る 芯のどこで塗るか？
3. 柄を描く その1 カーペットの場合
4. 柄を描く その2 フローリング・大理石・大谷石の場合
5. 総合練習
6. 付録 トレーニングペーパーの使い方
7. 前回付録 トレーニングペーパーの作例



1. 道具を作る

紙に芯をこすりつけて平らに均らすと下地を綺麗に塗れます。

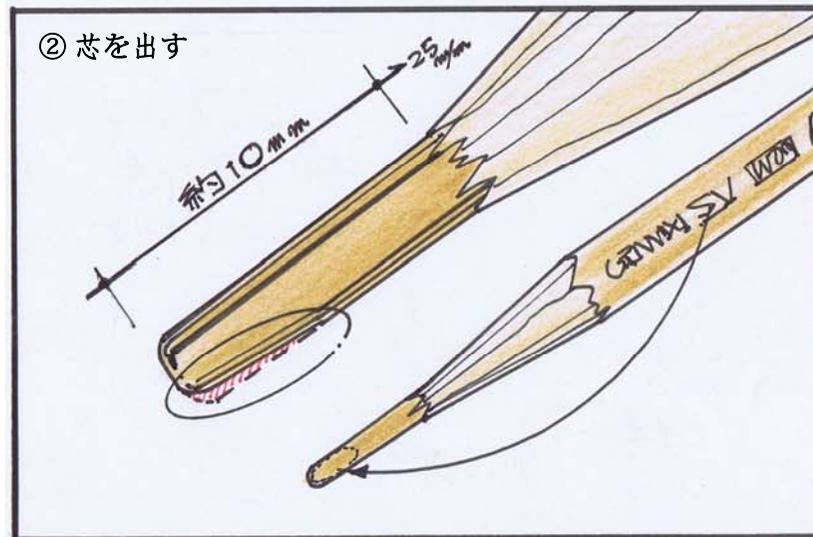


購入時の芯の先をカット

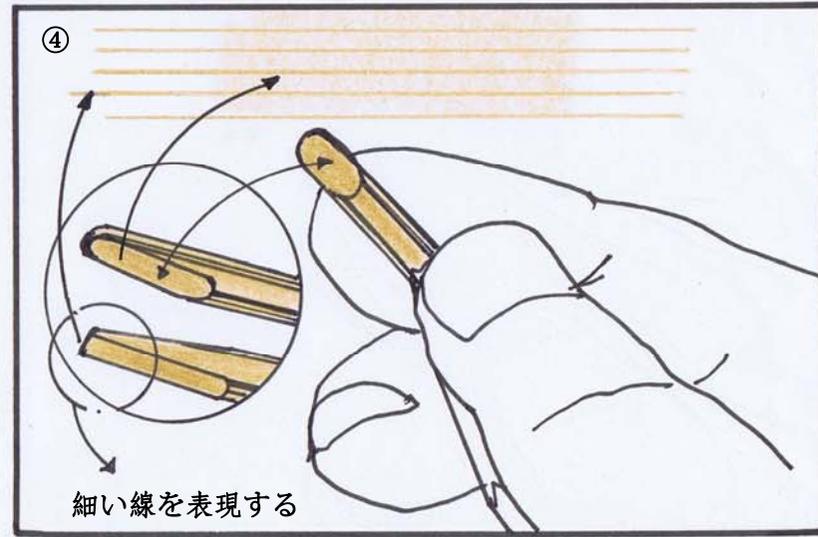
芯を削らないで、丸い状態を残す



均一になったらOK



削ってある面がわかりやすいので、軸の文字面の反対側を削る



細い線を表現する

カッターナイフでノミのように両方から削る

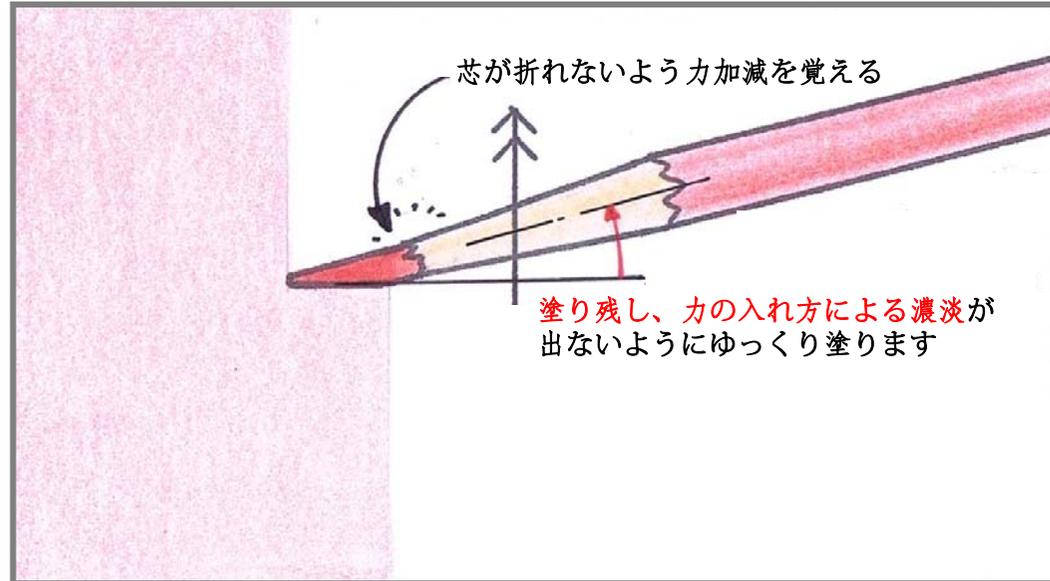
2. 下地を作る

色鉛筆の芯のどこで塗るか？

広い部分(ベース色)を塗る

鉛筆を寝かせて**芯の腹**で塗る

芯が折れないように力を加減します。塗り残し、力の入れ方による濃淡が出ないようにゆっくり塗ります。

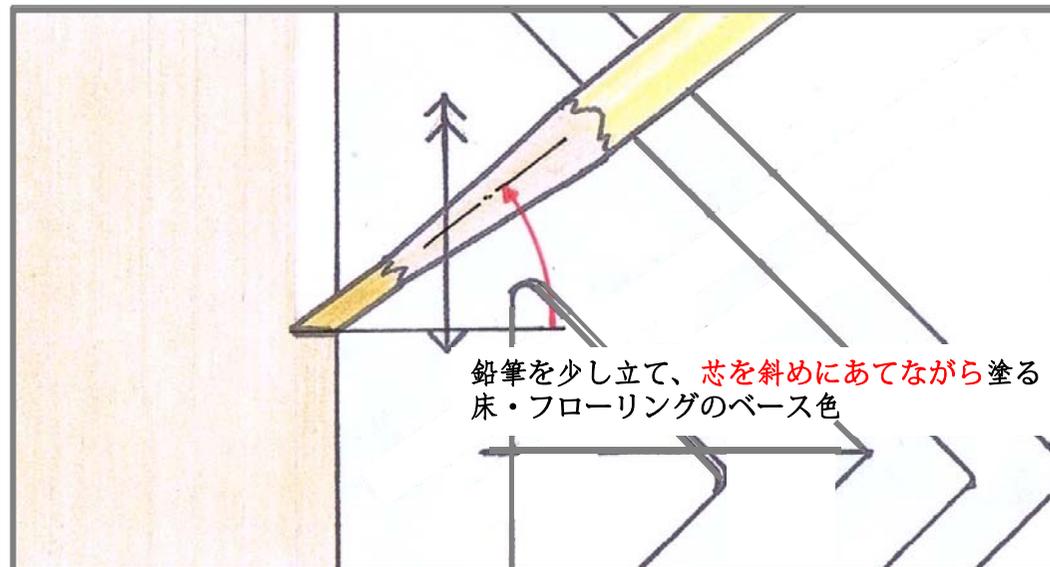


狭い部分を塗る

(家具類、インテリアグリーンなど)

鉛筆を少し立て、**芯を斜めにあてながら塗る**

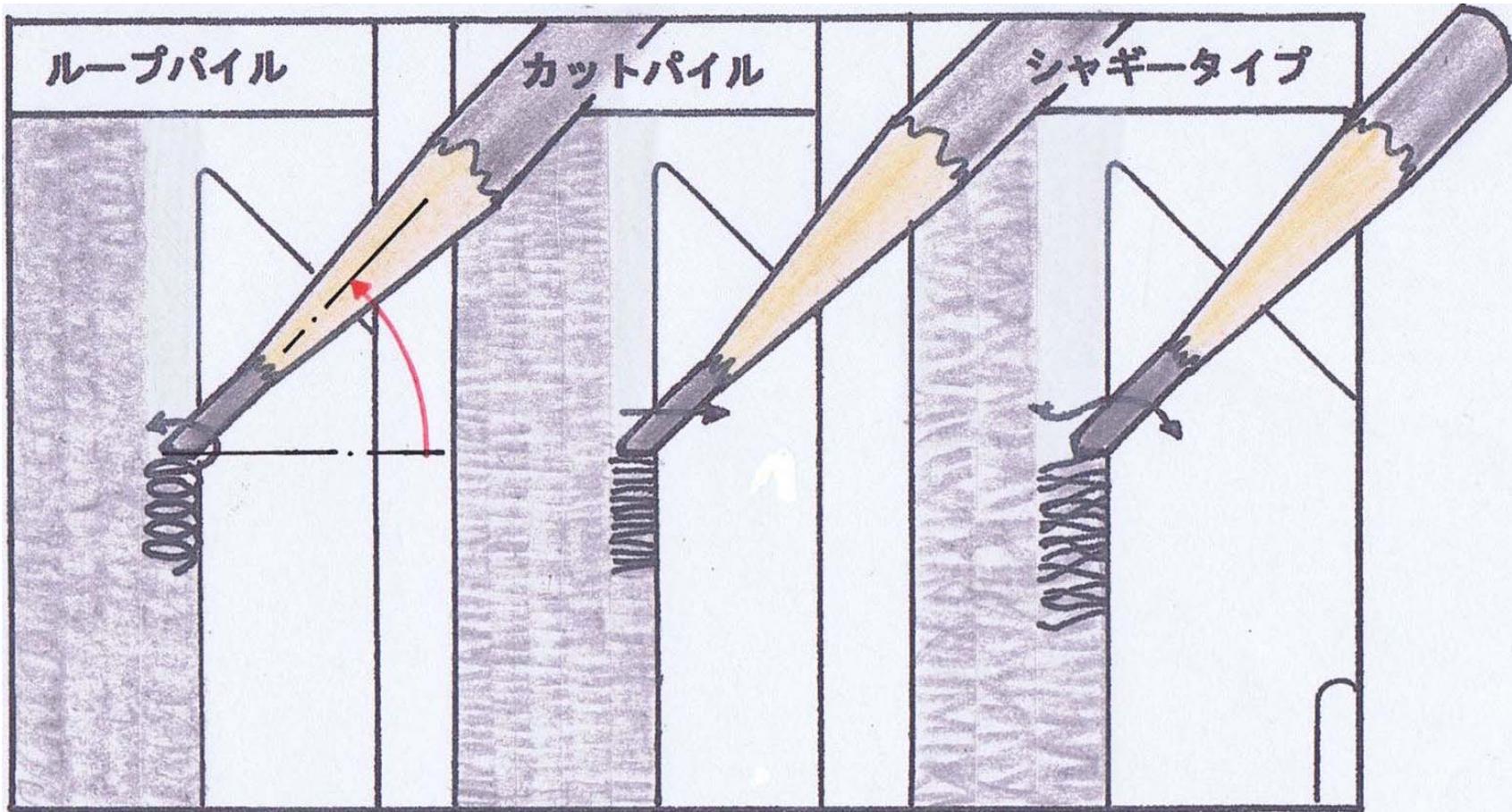
フリーハンドで描くのが基本ですが、定規を当てながら行くと手元が安定します。ムラが出ないように、ゆっくり塗ります。



[目からウロコ❶] 芯先を斜めに研ぐ

広い面積を塗る時は水平に近く研ぎ、狭い部分を塗る時は45° くらいに研ぎます。

3. 柄を描くその1カーペットの場合



平坦に塗られた下地の上に鉛筆を約45°の角度に傾けて、定規に沿って柄を描いて仕上げます。カーペットの種類によって、柄の描き方を変えます。ループパイルはコイルのように、カットパイルは短い直線の連続で、シャギータイプは荒いタッチでS字を描くように鉛筆を動かします。表情が硬くならないように適宜変化をつけます。



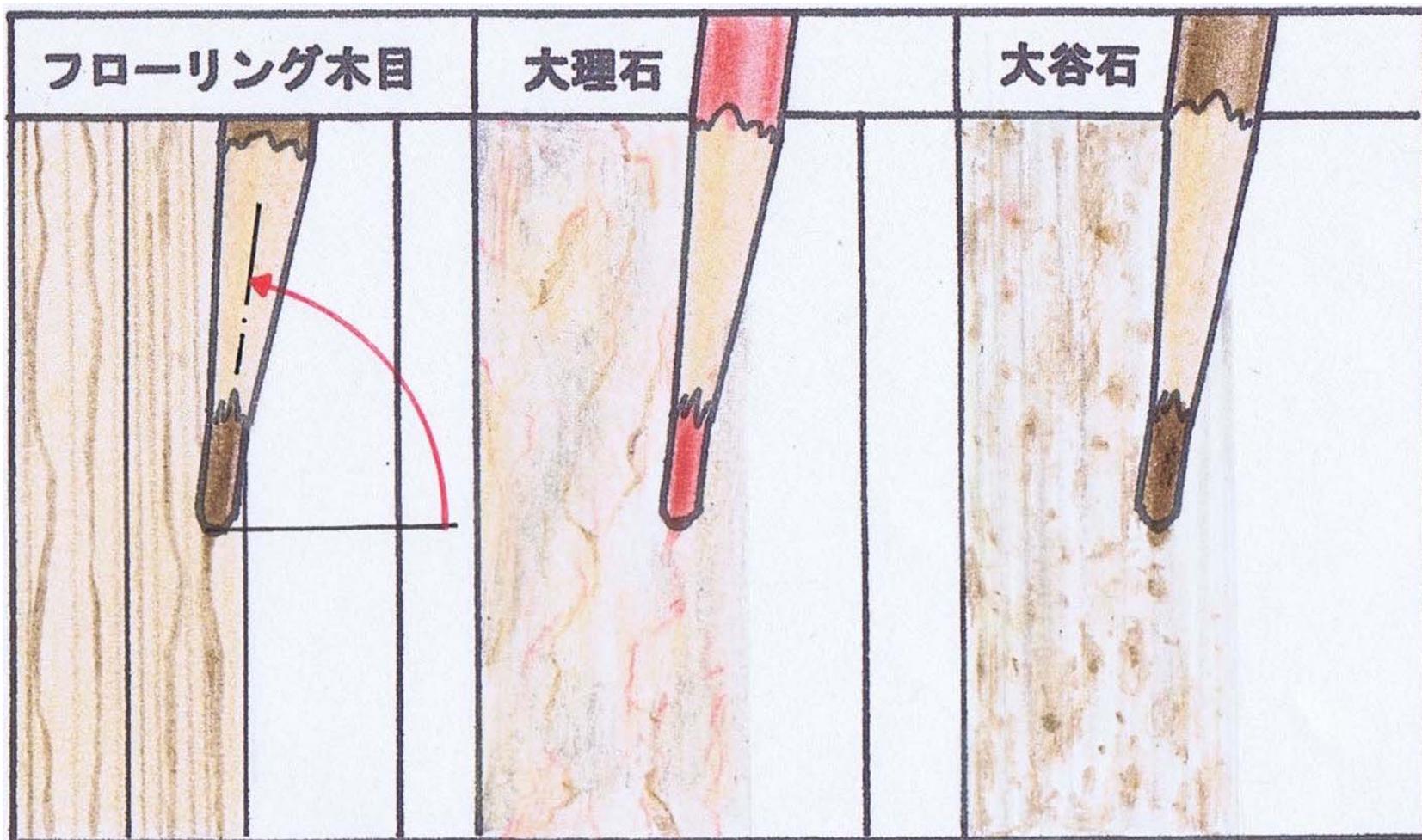
動画で見ることができます。

4. 柄を描く その2

フローリング・大理石・大谷石の場合

[目からウロコ②] 芯の先を丸く研ぐ

木目や石目を表現する時は、芯の先端を丸く研ぎます。



木目や石目は、鉛筆を垂直に近く立て**芯の先**で描きます。力を調節して太さに変化をつけ材質の表情を作っていきます。



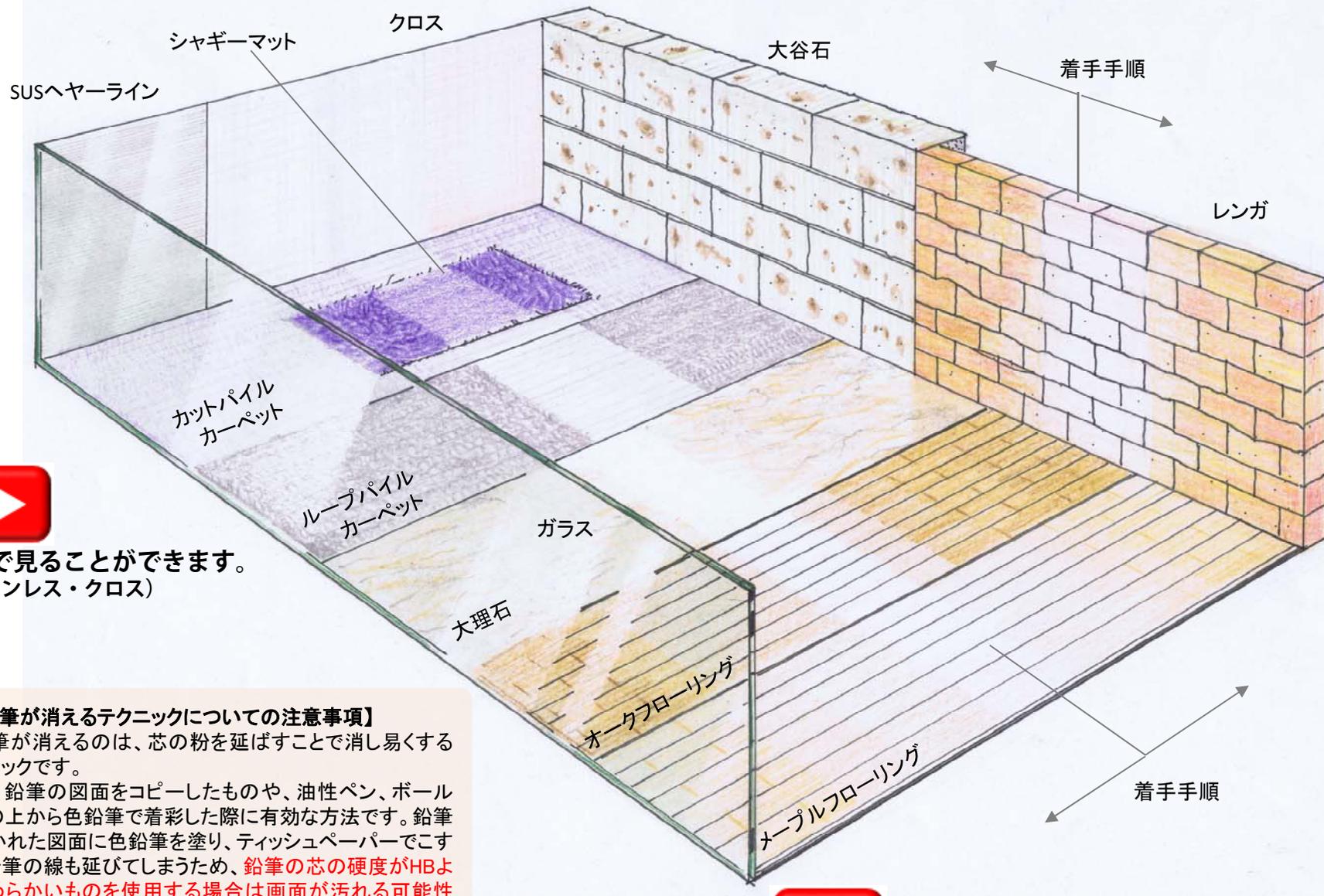
動画で見ることができます。
(フローリング木目)



動画で見ることができます。
(大理石、大谷石)

5. 総合練習

個別に練習してきた質感表現を空間の中で総合的に練習してみましょう。床仕上げ(フローリング・大理石・カーペット)とレンガは、中央部分が下地の状態で両サイドに向けて仕上がっていく過程を示しています。



動画で見ることができます。
(ステンレス・クロス)

【色鉛筆が消えるテクニックについての注意事項】

色鉛筆が消えるのは、芯の粉を延ばすことで消し易くなるテクニックです。

本来、鉛筆の図面をコピーしたものや、油性ペン、ボールペンの上から色鉛筆で着色した際に有効な方法です。鉛筆で書かれた図面に色鉛筆を塗り、ティッシュペーパーでこすると鉛筆の線も延びてしまうため、**鉛筆の芯の硬度がHBよりやわらかいものを使用する場合は画面が汚れる可能性があります。**鉛筆の芯がH~2H程の濃さであれば、力を抑えながら重ねた色鉛筆を汚さずに延ばす事は可能です。



動画で見ることができます。
(ガラス・レンガ)

第3回 色鉛筆による質感表現

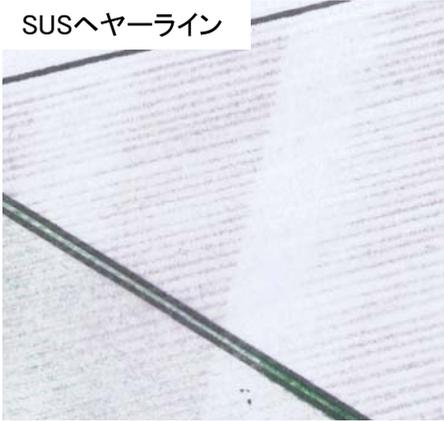
総合練習 部分拡大図

ステンレスとクロス: 鉛筆で細い線(ヘヤーライン、織柄)を先に入れてから、色を重ねて仕上げます。

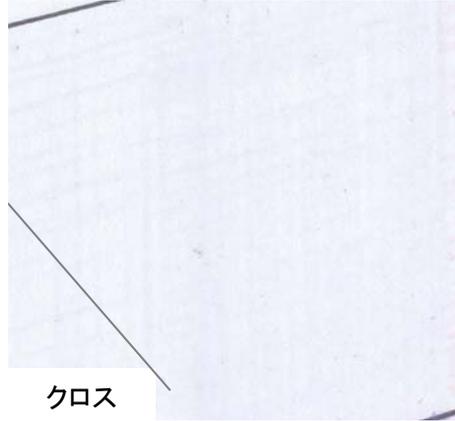
透明 ガラス : 透過部分は先にガラスを通して見える景色を描いてから、薄くガラス(グリーン)の色を重ねます。エッジに濃い色でしめます。ガラスやステンレスの反射部分は、消しゴムで消します。

レンガ : 変化をつけながら色を重ねます。最後に芯先で点を打ち、表面の表情を作ります。

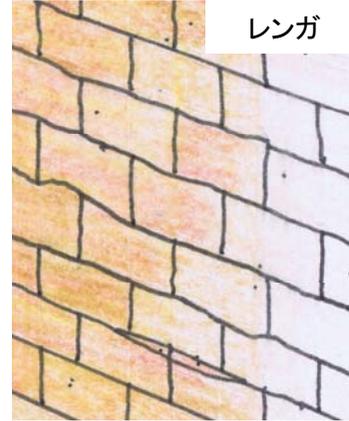
SUSヘヤーライン



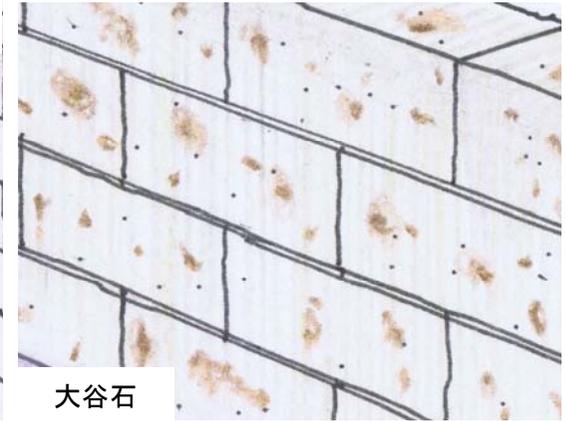
クロス



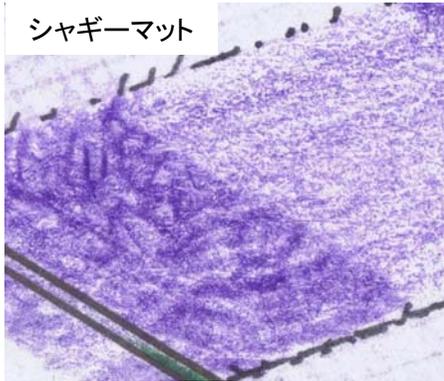
レンガ



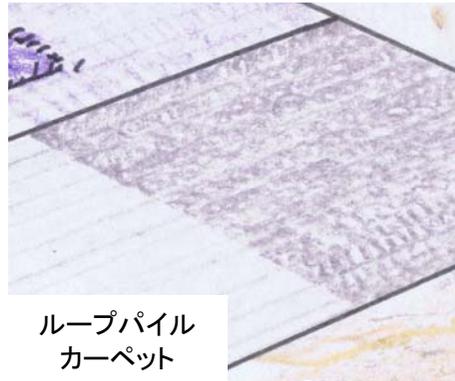
大谷石



シャギーマット



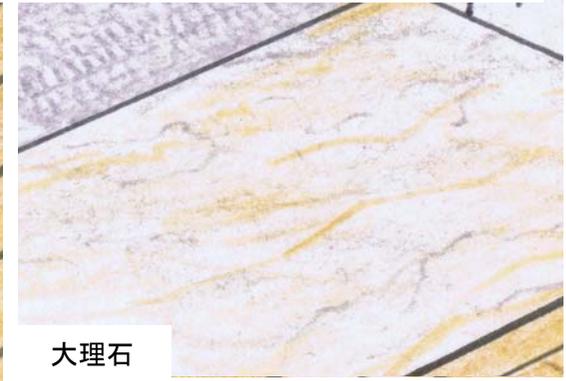
ループパイル
カーペット



オークフローリング



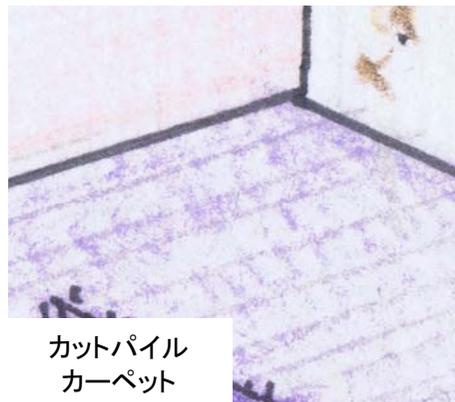
大理石



ガラス



カットパイル
カーペット



メープルフローリング

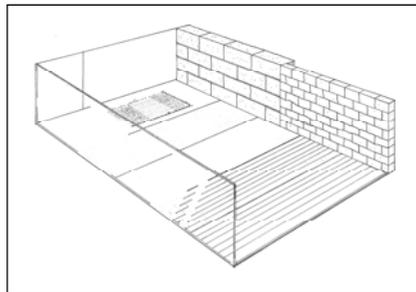


6. 付録トレーニングペーパーの使い方

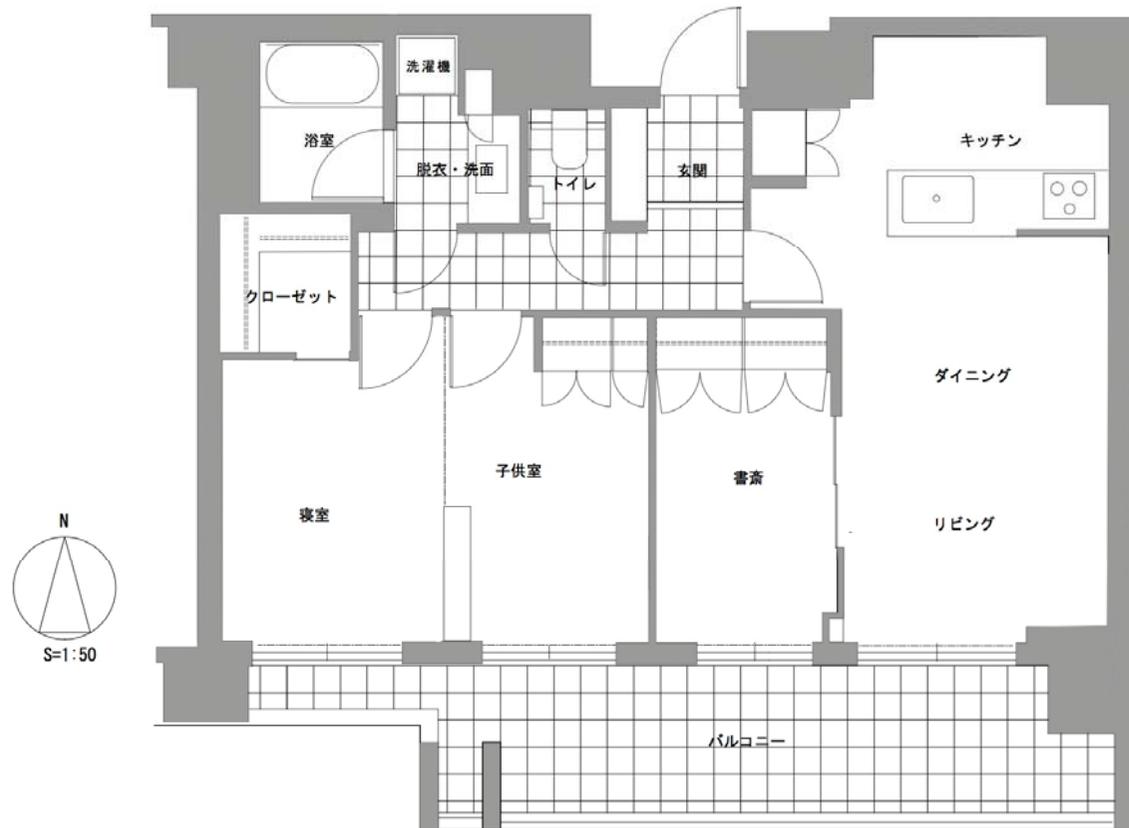
毎回の講座内容をこのトレーニングペーパーで演習して下さい。床仕上げの質感をできるだけ表現して下さい。次回に参考作品を付けますので、ご自分の作品と比較してみてください。

床仕上げは、LDKと書斎はチークフローリング、寝室はカットカーペット、子供室はループカーペット、玄関はタイル、その他は大理石とします。

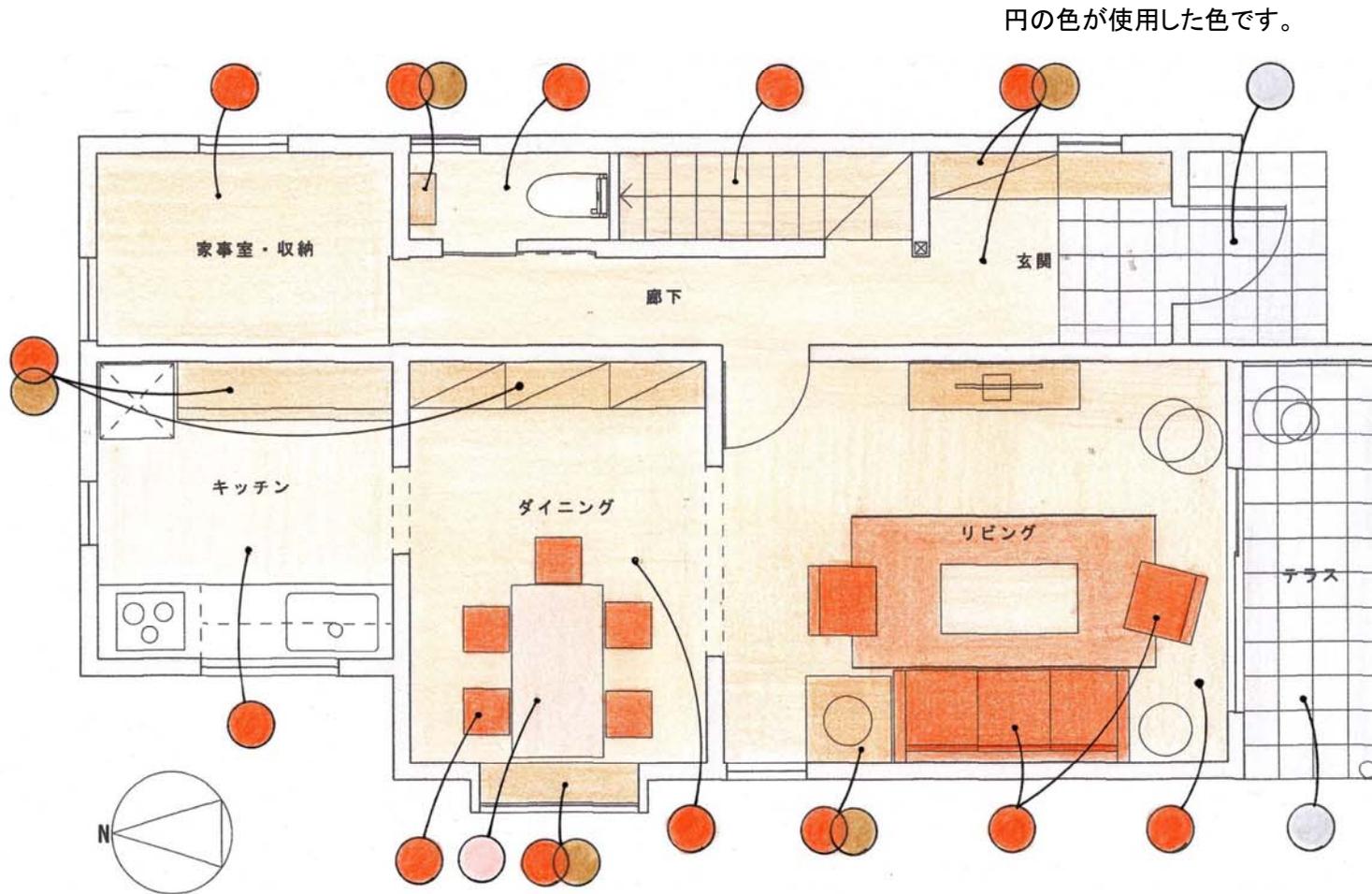
今回の講座で使用した用紙も同時にダウンロードできます。



トレーニングペーパー3 マンションの平面図

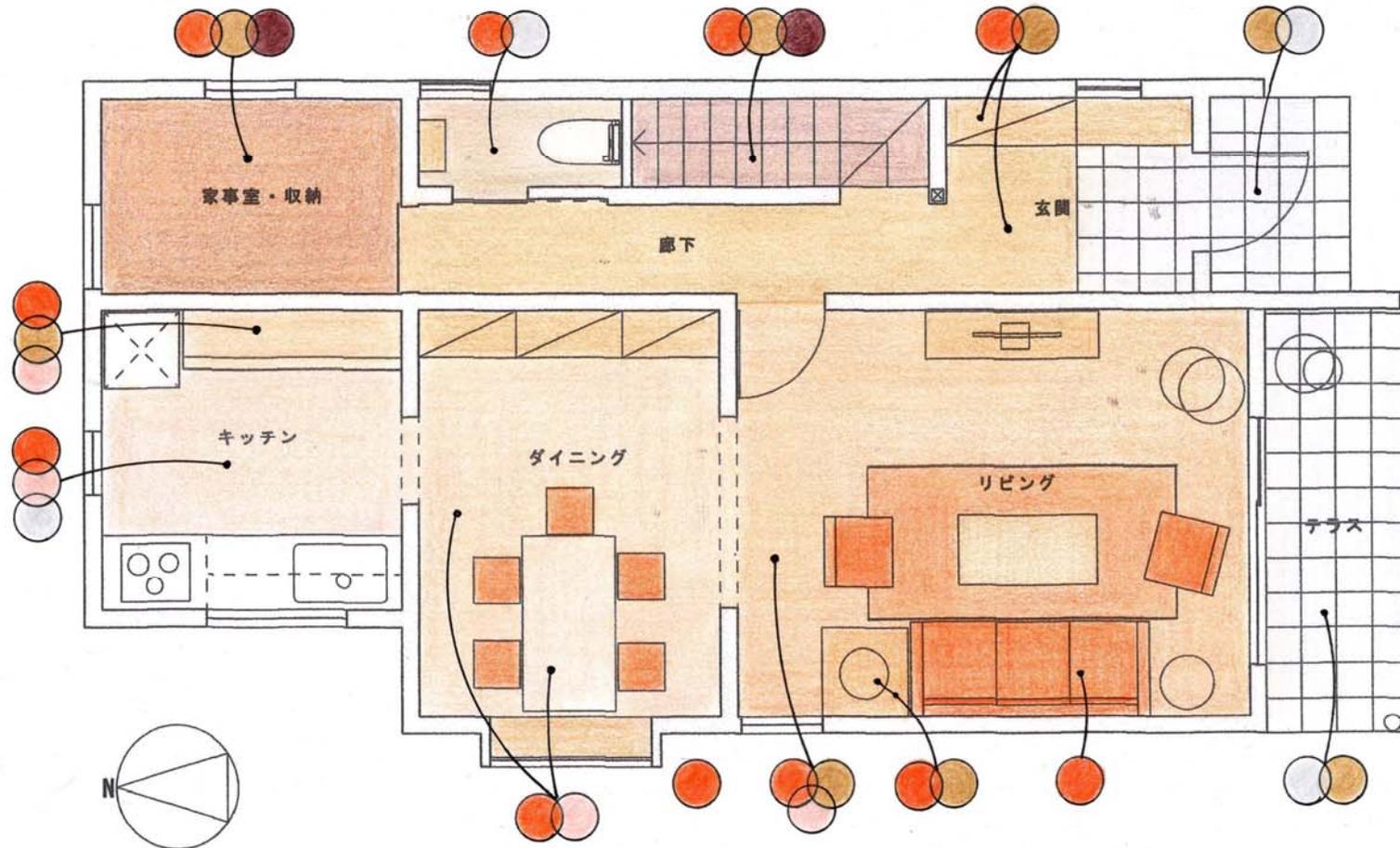


7. 前回付録 トレーニング作例 混色ステップ1: 下地



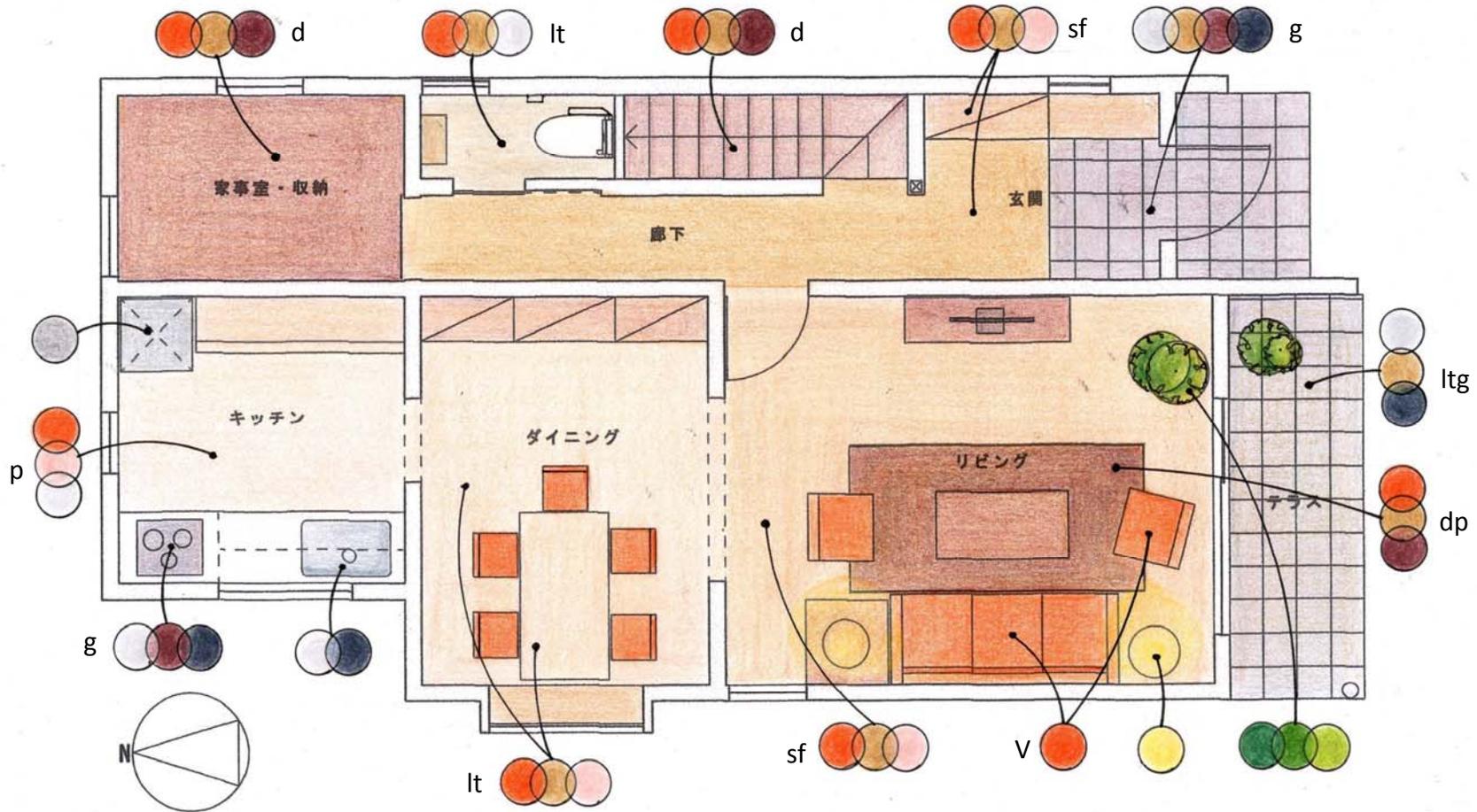
ベースの色の単色を濃淡のみで着彩する。
鉛筆のタッチ(濃淡の線)が残らないように均一に塗る。

7. 前回付録 トレーニング作例 混色ステップ2 調整



ベースの色に別の色を重ね塗りしていく。
重ねた色がどうなるかは別紙で試してから着手すること。

7. 前回付録 トレーニング作例 混色ステップ3仕上げ



ベースの色に別の色を2~3色を重ね、仕上げ材に近い色をイメージして濃淡を調整していく。
照明の色を重ねる。